

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報 第4号 畜産

発行日 平成25年 6月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 二番草の刈り取りは、適期に行いましょう。刈り取り高さが低くなりすぎないように！
- ◆ 草地更新 遅れないように圃場の準備を始めましょう！
- ◆ 暑熱対策のおさらいをもう一度！

飼料作物

1 二番草の収穫など

(1) 二番草の収穫

収穫時期は、一番草収穫後から 40～55 日が目安です。土壌及び牧草の水分が高く、気温の高いこの時期は、牧草が蒸れ上がり易いので、刈り遅れないようにします。

また、極端な低刈りは、地温の上昇から高温障害を受ける恐れがあります。刈り取り高さは 10～15cm とします。

(2) 収穫後の施肥

三番草の生育促進のため、二番草収穫後、できるだけ早く施肥します。施肥量は、10a あたり窒素 5kg、リン酸 2.5kg、加里 5kg です。尿散布を行う場合は、肥料焼けを防ぐため、曇天や降雨前後に行いましょう。

(3) 雑草(エゾノギシギシ) 防除

エゾノギシギシは、種子のみならず根茎でも繁殖できるため、防除の難しい雑草の一つです。除草には、選択性除草剤であるチフェンスルフロンメチル剤の茎葉散布が有効です。ギシギシの葉が展葉後、あまり大きくならないうちに散布します。散布後 21 日間は牧草の利用(採草、放牧)ができないこと、クローバー等のマメ科牧草に葉害が出やすいことなどに留意下さい。

2 草地更新の準備(除草剤の播種日同日処理による完全更新)

裸地や雑草が多い圃場では、草地更新を行うことで、収量の確保や栄養価の向上が期待できます。草地更新を計画している方は、遅れないように圃場の準備をしましょう。シバムギなど難防除雑草の占有が多い圃場で有効な、「除草剤の播種日同日処理」の作業工程を紹介します。

(1) 除草

雑草の占有が多い場合や既存植生の生育が旺盛な場合は、6月下旬から7月上旬に非選択性除草剤を散布します。

(2) 耕起～播種床形成

7月中旬から8月上旬にかけて、耕起、堆肥(10a あたり 5t を目安)と土壌改良材(石灰、リン資材)の散布、砕土、整地作業を行います。土塊を十分に砕き、牧草の発芽・定着を安定させるため、播種床形成は、丁寧に行います。この後雑草を十分に生え揃わせます。

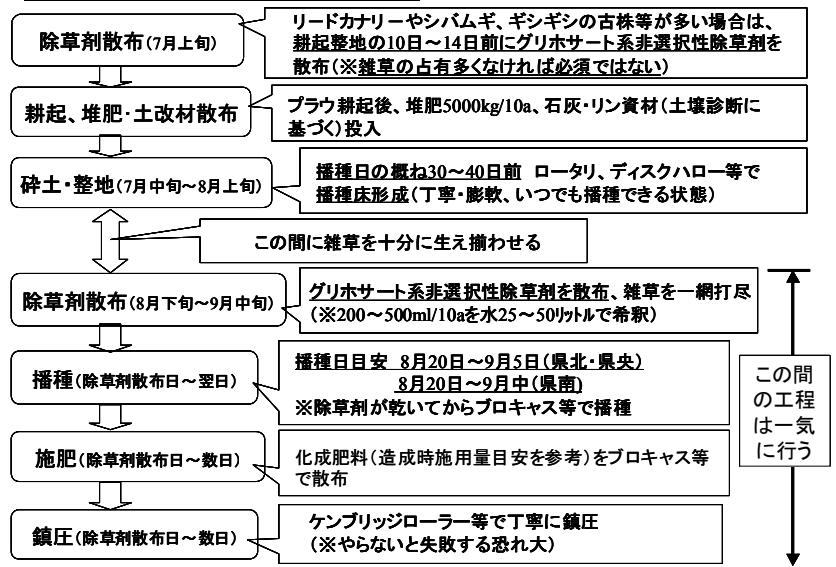
(3) 除草～播種(播種同日処理)

播種床形成から 30 日程度経過した8月中旬～9月中旬に、除草剤を散布します。除草剤が乾いたら、直ちに播種を行います。

(4) 施肥、鎮圧

播種後、期間を空けずに施肥と

除草剤の播種日同日処理の概要



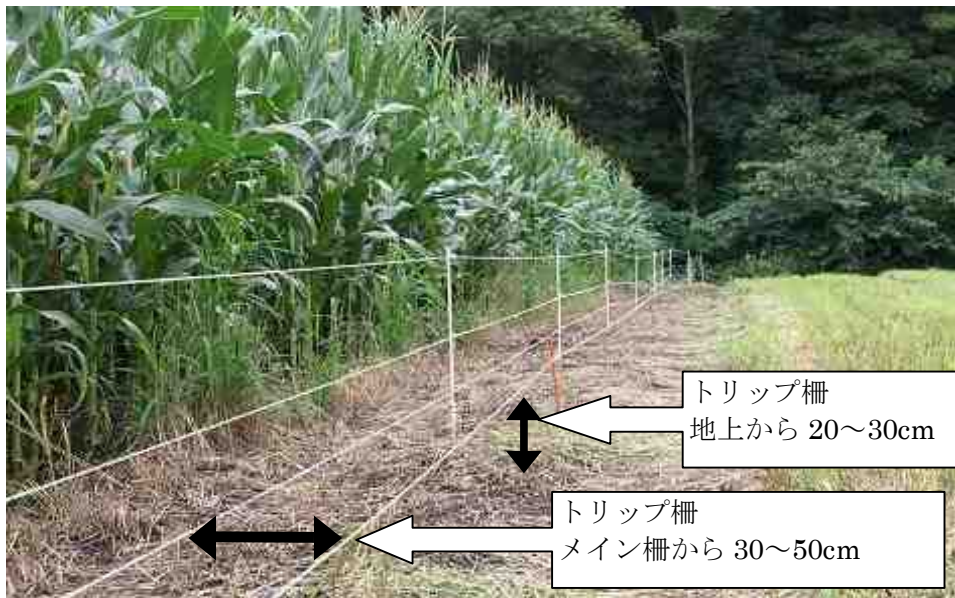
鎮圧を行います。鎮圧は発芽率向上に必須ですので、確実にを行います。

3 飼料用トウモロコシのクマによる食害防除

近年、県内においてクマによる飼料用トウモロコシの食害が多数発生しており、クマの圃場への侵入対策として電気柵の設置が効果をあげています。クマは一度味をしめた作物やその場所に対して強く依存するため、すでに圃場に様子を見に来ているとの情報もあります。

これまで食害に悩まされている方や、近隣圃場での被害発生情報がある場合は、未然に防止するためにもトウモロコシの出穂前までに、電気柵の設置をお勧めします。

電気柵設置後は、クマは穴を掘って牧柵をくぐり、圃場に侵入しようと試みます。特に、メイン柵の最下段の電牧線を適切な高さ（20cm程度）に設置することが重要です。また、トリップ柵（写真参照）の利用も侵入防止に有効です。漏電を防ぐため、下草の処理などにも気をつけましょう。



写真：飼料用トウモロコシ畑に設置された電気牧柵（トリップ柵付き）（県内事例）

暑熱の影響の緩和

本格的な暑さに向け、牛舎環境や飼料給与を点検しましょう。

- 1 牛舎内温度、牛の体感温度を上げないため、輻射熱や直射日光（西日）の遮断、換気・送風量の確保に気をつけてください。
- 2 新鮮な水を十分に飲水できるよう、給水量の確認と、水槽のこまめな掃除を行います。
嗜好性の良い粗飼料の給与に努めます。また、嗜好性の良い飼料（配合飼料やビートパルプを水で戻したものなど）をふりかけるなど、採食意欲を高める上で有効です。
- 3 外気温が低い夜間から早朝にかけて採食を促すよう、就寝前のエサ押しや給与時間などを検討しましょう。
- 4 粗飼料の摂取量や乳量・乳成分が低下し始めたら、次ぎの対応を検討下さい。
 - (1) 粗飼料の摂取量、反芻回数とだ液分泌量が減少するため、配合飼料の給与量の多い搾乳牛では、ルーメン pH低下によるアシドーシスが懸念されます。配合飼料の給与回数を増やす（少量頻回）、重曹（100~200g/日・頭）の給与などを行います。
 - (2) 発汗の増加により、カリウム、ナトリウム、マグネシウム、カルシウム、リンなどのミネラル要求量も通常の10から20%増加します。乾乳後期牛を除き、鉍塩を切らさないようにするとともに、重曹を補給し、リン酸カルシウムを増給します。

次号は7月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**6月1日~8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

中央農業改良普及センター・県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。